

令和元年度 日南市立大堂津小学校 自己評価書及び学校関係者評価書

学校経営ビジョン

- 1 児童の健康・安全を第一とし、全職員が本校の教育目標を理解し、英知と創意工夫によってその具現化を図る。
- 2 学校力向上のために、全教職員がコミュニケーション（報告・連絡・相談）を円滑にし、協働の意識と意欲をもち、「チーム学校」として、組織的に教育活動に取り組む。
- 3 児童や家庭・地域の実態に即し、保護者や地域の期待に応える教育の推進に努める。
- 4 今後の教育の動向を見据え、組織力を発揮して児童に生きる力を育むとともに、全職員相互の資質向上に努める。

【評価】 4（よい） 3（だいたい） 2（もう少し） 1（よくない）

評価項目	主な達成手段	判断基準	対象	評価 R元年度	評価 30年度	評価 29年度	増減	総合 評価 ※(昨年度)	考察及び改善策	学校関係者評価委員の意見	
確かな学力の定着と向上	①基礎的・基本的な知識・技能の習得、活用を図った授業の推進	Web学習単元評価システム及び単元テストの正答率	学校	2.4	3.0	3.0	-0.6	3.0 ※(3.1) 増減-0.1	Web学習単元評価問題において、県の平均正答率より10%以上下回る項目の割合は、本年度、A問題は全校平均13%、B問題は全校平均32%(昨年度A問題7.5%、B問題11%)で、昨年度より県平均を下回る割合が増えている。また、単元テストの正答率は、国語平均87点、算数平均83点(昨年度国語87点、算数88点)で、昨年度より算数が5点下がっている。このことは、学習内容を理解していると感じている児童の評価が昨年度より下がっていることにも表れている。 学校では、「授業改善の4+4のチェックポイント」を活用した授業改善や相互授業参観及び研究授業を基にした指導方法の工夫改善、学習環境の整備に取り組んだ。また、学力調査で落ち込みの見られた「必要な情報を読み取る力」を身に付ける練習や日南チャレンジを活用した習熟の場を設定した取組も行ってきた。しかし、「授業が分かりやすいと思う」「学習内容を理解している」という児童・保護者の評価が昨年度より下がっている。このことから、授業改善の取組は行っているが、児童や保護者に満足度のいく取組になっていないことや、まだまだ十分な取組がなされていないことが分かる。今後は、更なる授業改善を実施し、基礎的・基本的な知識・技能の習得、活用能力の向上を図った授業を推進し、一人一人の学力の向上を図っていくことで満足度の向上に繋げていきたい。	評価問題や単元テストの学校全体正答率が下がっているが、高学年になるにつれて上がってればよいのではないかと。そのために、学年ごとの経年変化を出して、傾向や対策を立ててほしい。分析の方法も学年別に行い、特異なものを除いてみるなどの工夫が必要である。 何が分からないのかが分からない児童は、どの点が分からないのかを明らかにする必要がある。少人数に分けて指導する学習や正答率の低い問題を前学年までさかのぼって学習するなどして、学力向上と学習意欲	
		4+4チェックポイントにそった授業づくりに努めているという認識	学校	2.8	2.8	3.3	0.0				
		授業が分かりやすいと思う児童の認識	児童	3.3	3.7	3.5	-0.4				
		授業が分かりやすいと思う保護者の認識	保護者	3.3	3.4	3.8	-0.1				
	②個別指導を生かした一人一人の学力向上	個別指導の実施状況		学校	2.8	2.9	3.3				-0.1
		分かるまで学習をしているという認識		児童	3.2	3.3	3.2				-0.1
		分かるまで家庭で学習をしているという認識		保護者	2.8	2.7	2.8				0.1
	③各学力調査結果等の活用	パワーアップタイムの実施状況		学校	2.8	3.2	3.2				-0.4
		パワーアップタイムの工夫や改善の有無		学校	2.7	3.0	3.3				-0.3
	④わかる授業、きたえる授業の実施	分かる授業、きたえる授業をしている教師の認識		学校	3.0	2.8	3.2				0.2
		学習内容を理解しているという認識		児童	3.1	3.4	3.2				-0.3
		先生たちは、分かるまで指導しているという認識		保護者	3.3	3.4	3.7				-0.1
心の教育の充実	①生徒指導の機能を生かした学級経営の充実	一人一人を大切に学級経営の取組状況	学校	3.1	3.0	3.0	0.1	3.2 ※(3.2) 増減0.0	楽しく充実した生活を送っているという児童・保護者の評価が下がっている。友達の言動で嫌な思いをしたり、友達との関わり方がうまくいかなかったりする状況がある。毎月1回「浜っ子会議」で児童の様子を全職員で把握し、指導の方針を立て今後の対応について共通理解を図っている。今後は、児童の学校生活における状況を把握し、得られた情報を職員間で共有し、継続的な指導を行っていく必要がある。 基本的な生活習慣・態度については、学校と児童・保護者の評価に差がある。学校での児童の様子をできる限り保護者に伝え、両者が共通認識のもとで基本的な生活習慣・態度を育成・定着させるための支援や指導を図っていく必要がある。 温かい人間関係を築く上で基本的姿勢となる思いやりや親切にする心を育むために、今後は、道徳の授業を中心に道徳性を養っていく。また、特別活動において、他者の考え方や意見の違い等を理解させて、認め合い、互いのよさを生かす関係づくりができるスキルをさらに身に付けさせる必要がある。	いじめを訴える児童があるという事実を、学校は隠さず報告していることに安心した。今後も状況把握と対策についての共通理解を図り、いじめの解消に向けて取り組んでほしい。 ランドセルの中身が多くとても重い。時間割を確かめ、家庭も支援し、自分で必要な教材を準備することができるような児童を育ててほしい。 少人数なので対話による学びが薄いのではないかと危惧する。対応の多様性を学べていないようだ。改善策を与え、解決していく経験をさせる必要がある。	
		楽しく充実した生活を送っているという児童の認識	児童	3.4	3.6	3.5	-0.2				
		楽しく充実した生活を送っているという保護者の認識	保護者	3.2	3.3	3.6	-0.1				
	②基本的な生活習慣・態度の育成	基本的な生活習慣が定着しているという認識		学校	3.0	2.8	2.7				0.2
		浜っ子会議や教育相談が児童理解・指導に役立っている認識		学校	3.3	3.1	3.4				0.2
		あいさつ、けじめ、えがおができていているという児童の認識		児童	3.3	3.5	3.2				-0.2
		あいさつ、けじめ、えがおができていているという保護者の認識		保護者	3.2	3.3	3.3				-0.1
	③温かい人間関係の構築	温かい人間関係の構築に関する取組状況		学校	3.1	3.1	3.0				0.0
		朝のボランティア活動等へ積極的に参加している児童の認識		児童	3.3	3.3	3.3				0.0
		友達と助け合い、思いやりのある行動をしているという児童の認識		児童	3.2	3.4	3.2				-0.2
		友達と助け合い、思いやりのある行動をしているという保護者の認識		保護者	3.3	3.1	3.3				0.2
	体力向上及び健康・安全、食育の充実	①体力向上プランの推進	体力向上プランが機能しているという認識	学校	3.2	2.6	3.0				0.6
児童が体力の向上に努めているという認識			児童	3.3	3.4	3.2	-0.1				
学校が体力の向上に努めているという認識			保護者	3.5	3.6	3.5	-0.1				
②安全指導の充実		安全指導の実施		学校	3.5	2.8	3.3	0.7			
		行動の仕方が身に付いているという児童の認識		児童	3.6	3.8	3.3	-0.2			
		行動の仕方が身に付いているという保護者の認識		保護者	3.4	3.4	3.4	0.0			
③健康教育・食育の推進		健康教育・食育指導の実施状況		学校	2.9	3.1	3.5	-0.2			
		歯磨きに進んで取り組んでいるという認識		児童	3.5	3.6	3.6	-0.1			
		児童が歯磨きに進んで取り組んでいるという保護者の認識		保護者	3.2						
		早寝早起き朝ごはんができていているという保護者の認識		保護者	3.1	3.2	3.1	-0.1			
		ノーメディアdayの取組状況		保護者	2.5	2.7	2.8	-0.2			
家庭や地域に信頼される学校づくり		①細田地区4校連携推進	4校が連携した取組状況	学校	2.8	3.0	3.1	-0.2	3.3 ※(3.3) 増減-0.0	細田地区4校が連携した集合学習や職員研修、地域の人材・素材を活用した取組については、小学校3校では合同の行事等を実施し、充実した学習や活動を行うことができている。中学校との連携が希薄なところは課題である。しかし、地域の素材・人材の活用は、平成29年度より益々多くなっているのにも関わらず、徐々に評価が下がっている。これは、地域の素材・人材の活用が、目新しい学習でなく当然のことと捉えられてきた表れかもしれない。また、一歩進んで活用後の成果に期待されているのかもしれない。そこで、学校だよりや学級通信、ホームページ等で、目的や成果をより分かりやすく情報発信する必要がある。	地域人材等の活用は非常によい。今後は、細田地区だけにこだわらず、他の地域や学校との交流へと幅を広げる時期にきているのではないかと。 親が地域の行事に参加していることが多いので、子どもたちに地域に貢献する気持ちが自然と育っているように思う。地域学習を継続することで、地域のよさを伝えてほしい。
	4校が連携した取組をしているという保護者の認識		保護者	3.4	3.5	3.7	-0.1				
	②学校からの情報発信と地域や保護者からの情報収集	学校だよりや学級だよりをとおして連携が取れているという認識	学校	3.3	2.8	3.2	0.5				
		学校の様子を積極的に公表しているという保護者の認識	保護者	3.5	3.6	3.7	-0.1				
	③学校支援地域本部事業の推進及び地域の人材・素材の活用促進	地域の素材・人材の積極的な活用に努めているという認識		学校	3.3	3.2	2.9	0.1			
		地域の素材・人材の積極的な活用ができていているという保護者の認識		保護者	3.6	3.7	3.8	-0.1			